

専大校友を訪ねて

静岡県沼津市清梵寺住職

肥田 英臣さん
(昭和40年経済)



富士を北に仰ぐ静岡県沼津市。「お地藏さんの寺」として地元で親しまれる臨済宗妙心寺派「清梵寺」の住職を務める。「僧侶は葬式だけでなく、人の話に耳を傾け、寄り添うことが大切な役割」を語った。高校で教鞭を執っていた。

また、同寺

のシンボルである木造地藏菩薩が鎮座する本堂では、自ら出演するふれあい合唱コンサートを行うなど、地域の中の寺の可能性を広げている。

清梵寺に近い寺の住職の

一話に耳傾け寄り添うことが役目一

次男として生まれ、幼いころから経を上げていた。中二の時に父が病死。その後兄とともに檀家との交流活動を行ってきた。父からは「将来は何をやってもいい」と言われてきた。地元の商業高校を卒業後、専大に進学。卒業後首都圏の企業に勤めを置いたこともあったが、清梵寺の先代から「跡継ぎに」という誘いを受け、地元に戻り仏門に入った。

専大時代は、男声合唱団「グリーククラブ」の創設を成し遂げた。歌うことが好きで「大学に入ったら合唱サークルに」と決めていた。しかし学内に男声合唱団がないことを知り奔走。「なせば成る」の一念で1963年、メンバー二十数人でグリーククラブを誕生させた。顧問の教授を通じて当時、国立音大の教壇に立っていた音楽家・岡本仁さんを訪ね、指導と校歌や応援歌の編曲を依頼。グリーククラブの礎を築いた。自らは学生指揮とバリトンを担当。卒業後「先輩のために」と、法衣姿のままグリーククラブの演奏会にかけつけ、タクトを振ったこともある。昨年、保護司としての功績から藍綬褒章を受章した際は、グリーククラブの後輩たちが祝賀会を催し、歌で祝ってくれた。「人と人との絆はかけがえないものですね」。穏やかな笑顔で語った。